

1100 | 複合的表現Ⅰ

3 単位（通信授業 1 単位、面接授業 2 単位）

三浦明範教授、重政啓治教授、永井研治教授、袴田京太郎教授、樺山祐和教授、丸山直文教授、阿部英幸講師、伊藤仁講師、大家泰仁講師、加藤健二講師、清水健太郎講師、瀬島匠講師、山本明比古講師、吉川民仁講師

授業の概要と目標

複合的表現では、狭義の領域概念や既成の表現形式にとらわれず、様々な素材やメディアを複合的に扱うことによって、新たな表現の可能性を探る。ここでは、内的想像力をもとに、「物質と記憶」「物質と知覚」といったことを通して、その表出作用と空間化、構造化について学ぶ。

通信授業ではフォト・コラージュによる「内的空間の表出」をテーマとした平面による制作とし、面接授業では同じテーマのもとに平面に限ることなく様々な素材やメディアを使用し、より幅広い表現を目指す。

課題の概要

○通信授業課題「フォト・コラージュ」

1-1 「内的空間の表出」をテーマに、写真や雑誌の切り抜き、コピーなど、様々な画像を材料とし、それらを並べたり、重ねたり、変形させたりしながら複合的に組み合わせたフォト・コラージュによる制作をする。また、作品について 200～400 字で解説をする。

○面接授業課題「内的空間の表出」

1-1 「内的空間の表出」をテーマに立体作品を制作する。2 種類のドローイング（A：音楽を聴く、目をつぶって描くなど外から刺激を受けながら B：自分の内的世界を探りながら）を行い、それらを手掛かりに、木箱等を支持体として、紙、金属、木、紙粘土等の様々な素材に、持参した思い出の品（写真、手紙、小物など）を加え、自己の内的世界を表現する。

授業計画

[通信授業]

学習指導書『複合的表現Ⅰ・Ⅱ 平成 29 年度』の「複合的表現Ⅰ」を参照。

教科書『複合的表現—絵画からの展開—』を参照。

教科書『絵画—素材・技法—』を参照。

教科書『絵画—アートとは何か—』の第 1 章「美術の成り立ち」等を参照。

[面接授業]

第 1 日 午前：前提講義及びドローイング 午後：ドローイング

第 2 日 午前：ドローイング 午後：中間講評及び立体制作

第 3～5 日 午前：立体制作 午後：立体制作

第 6 日 午前：立体制作 午後：立体制作及び採点・講評

成績評価の方法

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 3 年次

[履修条件] 「絵画表現Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

[備考] 油絵学科各コース選択科目。

教材等

教科書：『絵画—素材・技法—』（武蔵野美術大学出版局 2002 年）

『絵画—アートとは何か—』（武蔵野美術大学出版局 2002 年）

『複合的表現—絵画からの展開—』（武蔵野美術大学出版局 2005 年）

学習指導書：『複合的表現Ⅰ・Ⅱ 平成 29 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2017 年）